

国際理解セミナー 「聞かせて！スウェーデン人のパパ～北欧と日本の暮らし～」 (2018年2月24日)

1. 日時 2018年2月24日(土) 14:00～16:00
2. 場所 北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 5階大セミナールーム
3. 内容 概要説明「スウェーデンてどんな国!？」
北九州市立大学 地域創生学群 ESD プロモート実習
講演(対談)
ヨアキム・キタザワ氏 (イケア福岡新宮店)
古野 陽一氏
(NPO 法人北九州子育て・親育ちエンパワメントセンターBee 理事他)
4. 参加者 55名

今回は、まず初めに北九州市立大学の ESD プロモート実習生がスウェーデンについてのプレゼンテーションを行い、その後イケア福岡新宮店勤務でイクメン中のヨアキム・キタザワさんと、子育てのスペシャリスト、古野陽一さんにスウェーデンでの暮らし、教育、家庭のあり方、働き方などについて対談形式でお話していただきました。会場内にキッズスペースを設け、小さなお子さんと一緒に参加できる講演会となりました。



〔講演要旨〕

「スウェーデンてどんな国!？」

北九州市立大学 地域創生学群 ESD プロモート実習



スウェーデンは北ヨーロッパのスカンディナヴィア半島に位置し、首都はストックホルムです。人口は約1,000万人で、面積は日本よりやや広いです。言語はスウェーデン語。国連の世界幸福度ランキングでスウェーデンは10位、日本は51位。これは、スウェーデンでは高い税金を国が徴収することで社会福祉制度が大変充実しているからです。例えば20歳以下は医療費無料、大学の授業料無料などさまざまな制度があります。このような制度が整ったのは、社会福祉国家を重視する

長期政権を維持し一貫した政策を継続したことなどによります。またスウェーデンのジェンダーギャップ指数は世界5位と男女平等が高い水準で進んでいる国です。1970年代の経済発展に伴い人手不足が深刻化し、女性も男性と同じように外で働くようになり、女性の政界進出も進みました。



[スウェーデンの子育て事情]

世界最長のパパママ合わせて 480 日の有給育児休暇を取得することができ、さらに給与は 390 日は休暇前の 80%が支払われるなど制度が充実しています。パパは最低 3 ヶ月の育児休暇を取らなければいけません。

[スウェーデンの教育事情]

義務教育は日本と同様に小学校 1 年生から中学校の 9 年間で、授業料は小学校から大学までは無料です。スウェーデン語以外にさまざまな言語を話す人が多く、特に英語の能力は高いです。また、移民も多く、多様性を重んじるため、学校では制服もなく、先生が厳しく注意することもあります。テストは選択問題の多い日本とは違って、記述式が多く、これは自分で考えるということを大切にしているからです。

[スウェーデンの働き方]

共働きが当たり前です。専業主婦の割合はわずか 2%で、結婚や出産をしてもほとんどの女性は仕事に復帰します。また労働時間の短縮制度もあり、女性も無理なく働ける環境が整っています。日本で盛んなボランティア活動は、公的サービスが充実しているスウェーデンではあまり見られません。

「聞かせて！スウェーデン人のパパ～北欧と日本の暮らし～」

ヨアキム・キタザワ氏（イケア福岡新宮店）

古野 陽一氏（NPO 法人北九州子育て・親育ちエンパワメントセンターBee 理事他）

ヨアキム：福岡県新宮町で妻と 1 歳の息子と暮らしています。日本に来たきっかけは、小さいときからアジアや日本の文化やアニメが大好きだったことです。1 年間日本語を学びに来て、妻と出会い、結婚し、日本に来て 7 年になりました。趣味は動画、パソコンゲーム、旅行、息子と遊ぶことです。



古野：日本の子育てとスウェーデンの子育てで一番違うなと思ったことは？



ヨアキム：一番驚いたのは病院に行く回数が多いことです。スウェーデンでは、病院の数も少なく、薬も服用することを好まないのがあまり病院に行きません。またスウェーデンでは出産した母親も母と子の健康に問題なければすぐに家に返されます。

古野：共働きだから子どもを保育園に預けることになるのだろうか、いつ位から、何時間預けるの？

ヨアキム：基本的に育児休暇が終わった 1 歳とか 1 歳半位で預ける人が多いです。時間は朝の 8 時から夕方 5 時までが基本です。もしお父さんかお母さんが短時間の勤務制度を使っている場合は 2 時か 3 時までというのが多いです。

古野: 日本と違って、スウェーデンでは保育園に入れないということはないの？

ヨアキム: 入れないという話は聞いたことはないです。スウェーデンでは子どもがたくさん生まれた年には人数に合わせた保育園を開きます。子どもの数が少ないと保育園を閉所したりして調整します。



古野: スウェーデンでは家事にはあまり時間をかけないと聞いたけど、ヨアキムさんは日本の家事を見てどう思った？

ヨアキム: 毎日掃除機をかけて、炊事もし、風呂を洗い、洗濯してすごいな、と。

古野: スウェーデンではもともと帰って来るのが早い、家事に時間をかけない、そうになると子どもと向き合う時間がちゃんと取れるんだね。日本の女性とスウェーデンの女性はどう違う？

ヨアキム: 日本の女性は何も言わなくてもいろいろしてくれてすごく気が利きます。スウェーデンの女性は、自分のことは自分でやれて感じで強いです。

古野: 日本でも8:2位で女性の方が強いです(笑)。次に学校のことを聞いてみようと思うけど、具体的に小学校の授業はどんなだった？

ヨアキム: 先生が前に立って教えるのではなく、何かテーマを決めて自分で本やインターネットを使って調べて、発表することが多かったです。

古野: スウェーデンで3年働いていたときの仕事の内容や働き方はどうだった？

ヨアキム: アパレル系の倉庫で働いていて、主に店舗からのクレームの管理をしていました。朝の7時から夕方4時までゆっくり仕事をします。残業したのは3年間で3時間だけでした。スウェーデンでは残業する人は仕事ができないと思われれます。夏には3週間の休みが取れます。

古野: 日本人を見ていて違う生き物だと思わない？

ヨアキム: 本当に働き蜂だと思います。いつもよく我慢してると思います。

古野: 一つの会社には長くいるの？

ヨアキム: スウェーデンでは3年から5年働いてスキルを身に付けて、そのスキルを使って次の職場を探します。それによって給料も上がります。スウェーデンは年齢ベースではなく、スキルベースの賃金体系です。

古野: 仕事をする上で男女の差はある？

ヨアキム: 全くないです。ただし、保育士や看護師などは女性の方が多いし、力仕事は男性の方が多い。給料は看護師や危険物を扱う仕事は高いが、学校の先生の給料はとても低いです。これは先生の数が多く、また長い夏休みや冬休みの期間は先生の仕事もないためです。スウェーデンでは保育士は共働きを支えるために必要なので、給料も高めです。

古野: 税金の話を知りたい。消費税25%と聞いたけど、どんな感じになってるか話して。

ヨアキム: 消費税といっても0%、8%、15%、25%の4種類があります。必要性のレベルによって税率が変わり、食品は8%、本や教育に関するものは0%、車は25%です。全て税込み表示なので、税金が含まれている感覚がありませんでした。ただし、物価はものすごく高いです。また給料から

33%の所得税が差し引かれます。年金や社会保険料は100%会社負担です。よく言われるのは会社が給料の3倍払っているということです。だから会社にとって適材でないとなかなか採用されず、失業率も私が働いていた時は8%と高かったです。

古: 税負担が大きいため夫婦二人で働かないとやっていけない?

ヨ: 二人の給料がないと難しいです。平等に働いて、家事をして、子育てしないと成り立ちません。

古野: スウェーデンの大学や高校はどうなってるの?

ヨ野: スウェーデンは中学で将来何をやりたいか決めて、高校は専門を学ぶために行きます。自分はパソコンが大好きだったので、ITの高校に行きました。7割位のスウェーデン人は専門の高校に行って就職します。理系や医療系などさらに専門的な技術が必要な場合は大学に行きます。

古野: スウェーデンは受験はある?

ヨアキム: 受験はないです。高校に入るためには中学の成績がベースになります。大学に入学するには、高校の成績がベースですが、センター試験を受けて入学する人も少ないです。

古野: 最後にヨアキムさんから日本とスウェーデンの良いところを聞かせて。

ヨアキム: スウェーデンの良いところは森や緑などの自然があるところです。また、仕事さえあれば生活は安定し、何も経済的に問題がありません。一方、日本は物価と税金が低く、欲しいものを手に入れることがはるかに簡単です。また、生活しやすく人がとても優しいところ、誰とでも仲良くなれるところは日本のいいところだと思います。

古野: スウェーデンは、一人一人が安心して暮らしていける仕組みを作ってきた歴史があります。スウェーデンの文化や生活を見ていくと、日本人が心のどこかにいいなと思ってきた原風景とは根本から違うもののように感じます。みなさんはどう感じられましたでしょうか?

